

いたわり



一般社団法人 茨城県福祉サービス振興会情報紙

〔発行人〕 鈴木一良 〔編集・発行所〕 (一社) 茨城県福祉サービス振興会
〔編集委員〕 小室博俊、安藤真理子、柳下文江、桐原久雄
〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館5階
TEL.029-241-6939 FAX.029-241-6799



平成27年9月関東東北豪雨

大水害の現場で、会員からの報告

9月10日 常総市付近で発生した大水害の被災者を支援した当会の会員からの報告です。

女性の声を聞いて、物資の支援

寄り添わなければ！介護の心で。

被災地の女性から緊急要請された品々、女性用下着、トイレットパーパー、おむつ、ティッシュペーパー、タオルなど、ワゴン車に満載して常総市役所へ。

既に到着していた橋本昌知事は豊富な経験からでしょうか、的確で適切な指示を与えていた。私たちも指示を受けて支援物資受入の拠点である水海道体育館、石下体育館へ。

水海道中の学生ボランティアと共に荷降ろしをしていると、支援物資を取



りに来た人と支援所のスタッフの言い争う声があった。「女性の下着が欲しいんです。」「ないんですよ。」「でも、困っているんです。」「私たちが「今、お持ちしました!」と大きな声をはりあげると、そこにいた全員の顔が笑顔に変わった。本当に必要なものが行きわたるのが、支援する側も、される側もうれしいこと。これが最も大切と、改めて実感した。



フェイスブックで情報共有
適時、適切な支援には、情報の共有が不可欠の思いから、フェイスブックを活用した。瞬時に応えが返ってくる。さっそく下着、ウエットティッシュ、生理用品などの不足物資をフェイスブックでお願いした。
下妻市の当会会員との連携でも有効だった。適時的確な支援や支援者の拡大に繋がった。

要望は時とともに変化

支援物資の変化を見逃さないのも大切。被災直後は衣食、次に届いた要望は長靴、掃除用具など、自宅の片付け用品だった。被災家屋に戻った女性の方からは、街なかにも簡易トイレをとの切実な要望、行政に届けた。

（土浦市の会員Aさん）

デイサービスを中止にしよう 事業所を開放

結城市に住む、友人からの連絡。「鬼怒川があふれそう」午前5時ごろだった。

デイサービスの中止を決断。職員にお客さんへの連絡と安否確認を指示。時がたつにつれ事務所周辺は小河川からあふれ出た水で囲まれ始めてきた。午前9時ごろ避難の情報が流れ、避難が始まった。

事業所を避難所に開放した。避難者が集まりだした。知人友人にフェイスペックで救援物資を要請。3・11の経験から、水、オムツ、パンツなどの下着、衣類、生理用品、毛布



……などなど、効果は抜群、翌日には続々と届いた。

事業所の開放を知らせよう

事業所を開放していることを知らせよう！入浴は近くの入浴施設が開放していた。

介護が必要な人がいるはず！常総市の避難所、24か所を走り回った。

「介護が必要な方。入浴希望の方。」掲示板に貼り、チラシを配った。

プロジェクト絆の立ち上げ

孤立している避難所があることが、走り回ってわかった。アピールしないと支援物資が届かない、届けられない。きめ細かな支援が必要だ。目配りだ。人だ、ボランティアだ、「プロジェクト絆」を立ち上げた。義捐金の募集

も始めた。拠点は下妻の事務所とした。

フェイスペックで流すと、直ちに物資が届いた。浦安から届いた大量の魚はツミレ汁550食に、1600本も届いたバナナは、バナナパンケーキにして配った。

共助、絆が生きている

落ち着きが出てきたころ、甘いものがほしいとの声が届いた。甘いものは精神安定剤だ。9月20日は彼岸入りでもあり、「おはぎ」にしよう。デイに通ってくる皆さんの手を借りた。快く引き受けてくれた。

体のどこかに支障があるのに手慣れたもの、昔取った杵柄が。460個ほどできた。共助のこころ、絆が生きていた。

（下妻市の会員Uさん）

困っている人を助けよう

10日夜のニュースだった。決壊の様子、そして避難所が映し出された。

日頃の社長の言葉が浮かんだ「困っている人を助けよう」。翌日、マツトレス50数枚を積み避難所に向かった。避難所は混乱し、要望を聞く状況ではなかった。

日を改めて再度、避難所を回った。

必要とされるだろうと想定した介護用品、介護機器等積み込んだ。ウエットタオルは重宝され、消毒液や消臭剤も喜ばれた。

介護ベッドを提案したが、スペースの関係で無理、代わりに、立ちあがり補助する据置手すりを用意した。和式トイレ用の補助便座も提供した。

避難所の規模が大きくて、必要な福祉機器などをなかなか聞き出せない、もどかしい。

避難所が落ち着いてきたころ、必要機器等の提供ができ、ホッとした。

（土浦営業所の会員Sさん・本社水戸市）

おわりに

当会の多くの会員が様々な支援をしています。常総市に近隣する3会員からいただいた報告の一部を掲載しました。

当会でも茨城JRA Tからの要請を受け、会員事業所の協力を得て福祉用具を被災地に届けました。ご協力ありがとうございました。

厳しい寒さを迎えますので、一日も早い復旧復興を祈念いたします。

お知らせ・情報コーナー

腰痛予防への取り組み

講演会、研修会

茨城県では、介護職員に対する総合的な腰痛予防対策に取り組むこととし、介護職員腰痛予防対策等推進事業として、講演会、4つの研修事業を、当（一社）茨城県福祉サービス振興会に委託しました。

当振興会では、11月から開催・開講していますが、12月以降の研修等をご案内します。

参加費は、いずれも無料です。

●腰痛予防推進研修

腰痛予防介護技術の習得

- ①平成27年11月30日・12月1日
日立地区産業支援センター
- ②平成27年12月8日・9日
かすみがうら市あじさい館
- ③平成28年2月23日・24日
茨城県総合福祉会館
- ④平成28年3月4日・5日
神栖市保健・福祉会館
- ⑤平成28年3月10日・11日
古河市福祉の森会館

●リフトリーダー研修

移動用リフトの種類と特徴及び関連用具による介護作業の指導方法、助成金の概要

- ①平成27年12月4日・5日
日立地区産業支援センター
- ②平成28年1月30日・31日
茨城県総合福祉会館
- ③平成28年2月2日・3日
かすみがうら市あじさい館
- ④平成28年2月26日・27日
神栖市保健・福祉会館



●腰痛予防指導者育成研修

腰痛予防を推進する指導者対象の研修、4日間を予定

●フォローアップ研修

腰痛予防に取組中の介護施設、事業所での専門家による訪問指導

新たな事業への取り組み

「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」において、サービスの担い手となる地域介護ヘルパー養成の推進に取り組みます。

●茨城県地域介護ヘルパー養成推進事業

- ①地域介護ヘルパー講演会
- ②地域介護ヘルパー養成研修の推進
養成研修の市町村への要請
- ③地域ヘルパー普及啓発
地域住民への普及、啓発

●訪問介護員向け研修

- ①訪問介護員人材確保支援事業
サービス提供責任者に対する研修 2回 (各60名)

- ②訪問介護員研修
4地区で開催 各地区1回 (各30名〜60名)

問い合わせ先

(一社) 茨城県福祉サービス振興会
電話 029 (241) 6939

*詳細は、当会ホームページでもご覧になれます。

医療法人三愛会 三愛クリニック



住所：〒319-0325 水戸市小林町1186-60
電話：029-259-1717
FAX：029-259-0055
代表者：小島 三佳
ホームページ：www.san-ai-clinic.com
Eメール：san-ai@san-ai-clinic.com
設立年月日：2009年4月

診療科目

- ・内科 ・消化器内科
・糖尿病内科・乳がん検診

開院：月曜日～土曜日
(休診：日・祝祭日)

当院の診察・医療機器の特徴

●経鼻内視鏡

鼻からの内視鏡検査。安全で苦痛が少ない。吐き気が起きにくい。会話もできる。

胃がんの早期発見に。

●マンモグラフィ

より少ないレントゲン量で鮮明に撮影できる乳房専用の撮影装置。乳がんの早期発見に。

対話からはじまる医療
笑顔とまごころで
地域の健康を支える

幸せの第一歩は「健康から」、当院は特に高齢者や女性に優しい医療機関、地域の皆さまの健康維持のために安心して受診できる身近な医療環境の創出をめざしている。

ちよっと気になること、聞いてみたいけど聞きにくいことなど気軽に相談できる「かかりつけ医」でありたい。対話を重ねることにつくられる信頼の絆を大切にしながら来てよかった」と笑顔で帰っていただける、そんなクリニックでありたいと思っている。

社会福祉法人 愛の会 グループホーム いろり端水戸



住所：〒311-4144 水戸市開江町国置8番地
電話：029-257-6666
FAX：029-257-6600
施設長：飯田 つや子
ホームページ：http://www.heart-pia.com/meguminokai/guide/irori_mito/index.html
Eメール：gh_irori_m@heart-pia.com
開設：平成14年4月10日

提供している。

新施設

災害に強い施設

もしもの時の避難場所

特別養護老人ホーム

双葉陽だまり館

電話 029 (306)

7521

特別養護老人ホーム

定員70名 全室個室トイレ付

短期入所生活介護(ショートステイ)

定員10名

平成27年8月、「住み慣れたこの町で、いつまでも安心して暮らしていただきたい」との思いをこめ、全室個室でオープンした。短期入所生活介護、デイサービス、居宅介護支援事業所も併設している。

グループホームいろり端水戸は、水戸市の郊外にあり、閑静な双葉台団地に隣接し、静かな雑木林を背景に建っている。

■事業施設・内容

・グループホーム 18名 (9名×2ユニット)

・リハビリデイサービスセンター

はーとぴあ (一日当たり20名)

グループホームは原則として水戸市にお住まいの認知症要介護者の方が利用、リハビリデイサービスではトレーニングマシンを揃え、機能訓練が行える。

・訪問看護事業所 ハート24

自宅療養を続けられる方、一人ひとりの状態に合った看護サービスを

編集後記

我が家の愛犬も齢15。寝たきりの生活で2年余。日々毎日介護の生活。

私も前期高齢者。愛犬を通して老々介護。他人事ではないと痛感。

(小室)